

2 高齢者の「欲張りなライフスタイルの実現」を応援する環境づくり

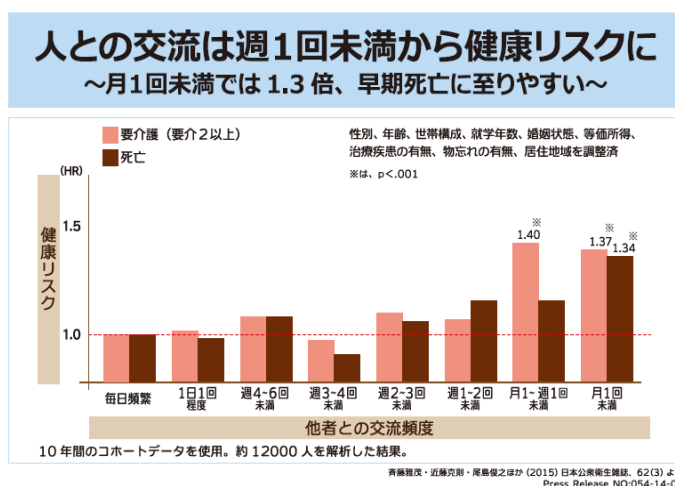
(1) 社会参画の促進

【現状】

<多様な形で活躍できる仕組みづくり>

- 高齢者にとって、社会との関わりが多いほど要介護発生のリスクが低く、また、社会と関わって自分らしく生活することが自己実現にもつながります。

図表 2-2-1 人との交流と健康リスクの関係



出典：日本老年学的評価研究

- 定年延長等により、就労・就業を通して社会とのつながりをもつ高齢者は増加する一方で、令和5年度に実施した「医療介護時の安心感調査」によると、趣味・サークル活動や地域活動等の社会参画をしていない高齢者の割合は、65歳以上で全体の52.1%となっています。

また、同調査において社会参画していない40歳から64歳の割合は、全体の72%となっており、高齢期になる前に、地域になじみの関係を築いていない人は、高齢になってから新たに地域活動に参加するハードルが高くなるなど、社会との接点が薄くなり、孤立しやすいことが考えられます。

- 本県では、これまで、高齢になって年齢を重ねても、地域や社会の中で、生涯現役で活躍できる環境づくりを推進するため、「プラチナ世代」の育成や就労的活動の促進を実施する市町への支援を行ってきました。

この結果、地域で活躍する人材を育成し、活動につなげるプラチナ大学の実施市町は18市町となっています。

<ボランティア>

- 県社会福祉協議会と市町社会福祉協議会（以下この項において「県社協」、「市町社協」という。）では、ボランティア活動者の交流や、大学、地縁組織、NPO、地元企業、社会福祉法人などの多様な主体との連携を通じて、ボランティアセンター機能の充実を図るとともに、地域住民や活動団体等のボランティア活動者の育成と参加促進に向けた取組を進めています。

<老人クラブ>

- 老人クラブは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、同一地域に居住する60歳以上の人で組織され、会員の話し合いで運営されています。

また、「のぼそう！健康寿命 担おう！地域づくりを」をメインテーマに掲げ、「元気な高齢者の健康をいかにして維持してゆくか」「元気でない高齢者をいかにして支えてゆくか」の具現化のため、地域において、健康づくり、シニアスポーツ、文化活動、レクリエーション、各種学習活動、友愛活動、ボランティア活動、伝承活動、環境美化などを通じて、介護予防や相互の生活支援、地域づくり等の重要な役割を担っています。

- 県老人クラブ連合会では、市町や単位老人クラブのリーダー育成や組織体制の強化のほか、老人クラブの活動を地域貢献活動へと進めるための指導的な役割や関係者間の総合調整を行っています。
- 市町老人クラブ連合会では、単位老人クラブ活動の総合調整や、市町行政・関係団体との連携等を行っています。

図表 2-2-2 老人クラブの状況

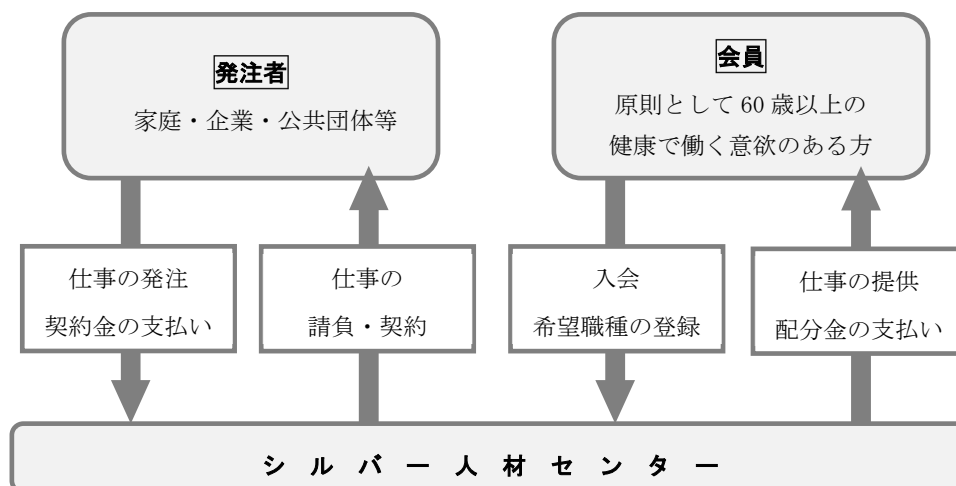
年 度	クラブ数	会員数
R 2 (2020)	2,209 か所	114,164 人
R 3 (2021)	2,132 か所	107,441 人
R 4 (2022)	1,987 か所	99,714 人

出典：福祉行政報告例

<シルバー人材センター>

- 働く意欲のある高齢者に就労機会を提供することを通じ、年齢に関わりなく働くことができる「生涯現役社会」の実現と、地域社会の福祉の向上や活性化を担う団体として、現在、県内 21 か所のシルバー人材センターが活動しています。
- 高齢者の就業ニーズが変化し多様化する中で、令和 3（2021）年 4 月に高年齢者等の雇用の安定等に関する法律が改正され、70 歳まで就業機会の確保が努力義務とされたことなどにより、シルバー人材センターへの期待や役割がますます大きくなっています。
- 本県では、高齢者のこれまで培った能力や経験、個々の希望や体力を活かした就労機会の確保につなげるため、シルバー人材センターへの支援を実施しています。

図表 2-2-3 シルバー人材センターの仕組み



【課題】

＜多様な形で活躍できる仕組みづくり＞

- 社会参画をしている者は「安心感」や「生きがい」を感じる割合が高く、高齢者の活躍が社会の活力の維持にもつながることから、高齢期になっても希望に応じた仕事や地域活動などに参画し続けられるような機会づくりを促進していく必要があります。
- この場合、高齢期になる前からの年齢層も含めた社会参画への意識づけや、活動のきっかけづくりに取り組む必要があります。

＜ボランティア＞

- 地域福祉ニーズの多様化に対応するため、市町社協のボランティアコーディネーターを育成し、多様な担い手の参加促進とボランティアセンターの更なる機能強化を図る必要があります。

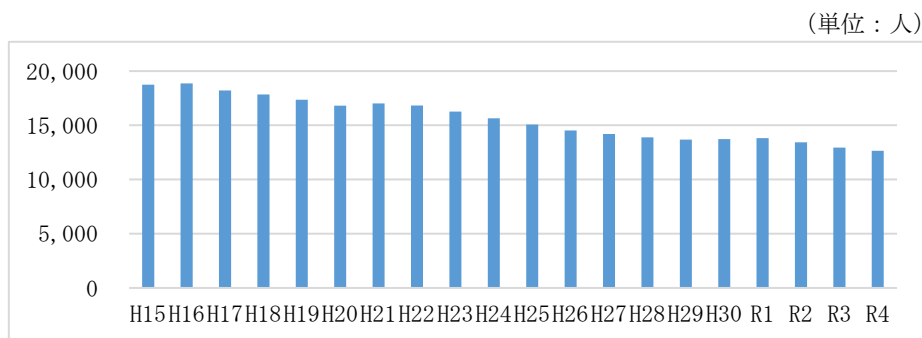
＜老人クラブ＞

- 近年、老人クラブ数と会員数は減少傾向であり、会員の高齢化も進んでいることから、若年高齢者の加入促進や後継者の確保・人材育成を図ること等により、引き続き老人クラブの活動を維持していくことが必要です。
- また、老人クラブ活動の活性化に向け、老人クラブと行政及び社協などの関係者間の連携を強化していく必要があります。

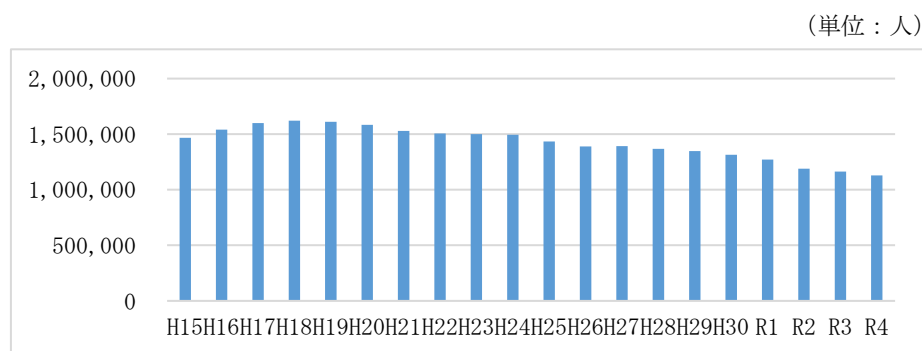
＜シルバー人材センター＞

- 地域で求められるニーズへの対応や、高齢者の希望に応じた就労機会を提供するため、シルバー人材センターの役割がますます重要となっていますが、新型コロナウイルス感染症等の影響により会員数は伸び悩み、就業延人員は減少傾向にあるため、対策を講じる必要があります。

図表 2-2-4 シルバー人材センター会員数



図表 2-2-5 シルバー人材センター就業延人数



出典：県シルバー人材センター連合会

【今後の取組】

＜多様な形で活躍できる仕組みづくり＞

- 就労的活動をコーディネートする機能を充実するため、地域で活躍する意欲のある高齢者と、地域の担い手不足を補いたい企業・団体等とをマッチングするなどの事業に取り組む市町を支援します。
- 地域で活躍できる高齢者や団体を育成するため、高齢期になる前から社会参画への意識づけや活動のきっかけづくりに取り組む市町を支援します。

＜ボランティア＞

- 県社協と連携し、市町社協のボランティアコーディネーターの育成研修の開催や、多様な主体が連携するネットワークの構築などによりボランティアセンターの機能強化を図るとともに、啓発・広報等を通じて、新たな担い手の参加促進に取り組みます。

＜老人クラブ＞

- 老人クラブ活動の充実や高齢者の社会参画を促進するため、県老人クラブ連合会や市町老人クラブ連合会が行う活動に対して、運営費の補助等により支援します。
- 県老人クラブ連合会、県社協等との意見交換などを通じて、若年高齢者の加入促進や会長等の後継者の確保・人材育成の取組を検討します。
- 老人クラブ活動の意義や魅力を高めるとともに、その組織や機能が十分に発揮できるよう、市町、市町社協等と連携し、活動の活発化のための普及啓発を促進していきます。

＜シルバー人材センター＞

- 県シルバー人材センター連合会による、県内各シルバー人材センター相互の健全な発展等を支援するため、運営費の補助を行うとともに、更なる会員増・受注件数増への対策に連携して取り組みます。

〔達成目標〕

No	区分	年度		R4 (2022)	R8 (2026)	R11 (2029)
		指標		現状	中期目標	長期目標
11	P	地域活動等への参加率	40～64歳	28.0%	前回調査より向上	前回調査より向上
12	P		65歳以上	47.9%	前回調査より向上	前回調査より向上

S：ストラクチャー指標、P：プロセス指標、O：アウトカム指標

〔出典〕

- 11、12：県健康福祉局「地域包括ケアシステムにかかる県民の安心感に関するアンケート調査」（令和5（2023）年9月）

(2) 生きがい活動の促進

【現状】

<高齢者の生きがい・健康づくり応援事業>

- 高齢者が生きがいを持ち、これまで培った知識・技能を活かして、地域活動などに積極的に取り組むことができる環境づくりを推進するため、市町や明るい長寿社会づくり推進機構等の関係機関と連携し、「高齢者の生きがい・健康づくり応援事業」を実施しています。

図表 2-2-6 高齢者の生きがい・健康づくり応援事業の内容

事業名	内容	R4 (2022) 年度実績
全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣	全国健康福祉祭（ねんりんピック）へ、各種予選会等で選考された選手を広島県選手団として派遣	・第34回全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会 11月12日～15日
シニア総合スポーツ大会	高齢者によるスポーツ大会の開催	・第32回広島県シニア総合スポーツ大会 5月21日、28日、29日
シニア囲碁・将棋大会	高齢者による囲碁・将棋大会の開催	・第33回広島県シニア囲碁大会 東部地区 11月23日 西部地区 12月3日 ・第33回広島県シニア将棋大会 12月4日
シルバー作品展	高齢者の創作による日本画、洋画、彫刻、工芸及び写真の作品展示	・第31回広島県シルバー作品展 10月26日～30日

<生涯学習・生涯スポーツの推進>

- 大学等で行われる公開講座や公民館、図書館、博物館等の社会教育施設といった「学びの場」をはじめとして、学習環境の提供が図られています。
- 令和4（2022）年度の「広島県民のスポーツの実施状況等に関する調査」では、65歳以上の人で、週1日以上運動・スポーツをする人の割合は59.0%で、全世代の中で特に運動やスポーツに取り組んでいる世代といえます。

一方、65歳以上の人で、この1年間に運動・スポーツをしなかった人の割合は15.7%であり、その理由として「年をとったから」、「面倒くさいから」、「特に理由はない」が高い割合を占めています。

【課題】

<高齢者の生きがい・健康づくり応援事業>

- スポーツや文化活動を通じて、高齢者の生きがいと健康づくりを促進するため、より多くの高齢者が本事業に関心を持ち、県内全域から参加してもらえるよう工夫する必要があります。

＜生涯学習・生涯スポーツの推進＞

- 生涯学習を推進するための情報提供や学習機会の提供を更に充実する必要があります。
- 高齢期は、介護予防等に向けて健康・体力の保持が特に必要とされているため、日常生活の中に自分に合った運動やスポーツに親しむ機会を創出し、心身ともに充実し活力ある生活が送れるようにする必要があります。

【今後の取組】

＜高齢者の生きがい・健康づくり応援事業＞

- 市町及び関係機関との情報共有及び関係団体の参加と協力のもとに、高齢者が一層、参加しやすい事業とし、高齢者の社会活動の振興を図ります。
- 住民が主体となって介護予防に取り組む「通いの場」など、高齢者の身近なコミュニティにおいてスポーツの効能の普及啓発や機会の確保に取り組みます。
- 「広島県シニア総合スポーツ大会」のほか、高齢者でも無理なく実施できるウォーキングや体操など、日常的な運動を一層普及し、運動習慣の定着を図ります。
- 運動器の障害のために自立度が低下し、介護の危険性の高い状態であるロコモティブシンドロームの認知度を高めるとともに、住民主体の「通いの場」などにおける筋力維持向上のための体操や体力測定等を通じた転倒予防の実践支援などに取り組みます。

＜生涯学習・生涯スポーツの推進＞

- デジタル技術を活用する上で求められる基礎的な知識の学習機会の充実を図っていきます（デジタル・ディバイドの解消）。
- スポーツ推進委員研修会や総合型地域スポーツクラブのアシスタントマネージャー研修会を実施し、生涯スポーツの活動を支える人材の育成に取り組みます。
- 各競技団体の活動やスポーツに関する地域の取組、スポーツ関連施設等の情報発信を行い、スポーツへの関心を高めるとともに、スポーツ施設の利便性の向上に努めます。
- 身近な公共空間を活用して誰もがスポーツを楽しめる環境整備を行います。

〔達成目標〕

No	区分	指標	年度		
			R4 (2022) 現状	R8 (2026) 中期目標	R11 (2029) 長期目標
13	P	高齢期における週1日以上のスポーツ実施率	59.0%	—	65.0%

S：ストラクチャー指標、P：プロセス指標、O：アウトカム指標

〔出典〕

13：県地域政策局「広島県民のスポーツの実施状況等に関する調査」
(令和4(2022)年度)